





小鷹くんには
物語を書く
才能があつた





俺は
小鷹くんの
ことが好きだ

が
チャッ

おじゃま
しまーす

彼は未だに
バイト代を
払い続けている



小鷹くんは授業も
真面目に受けず
ひたすら書き続け

2年に
上がる頃には
大学を辞めて

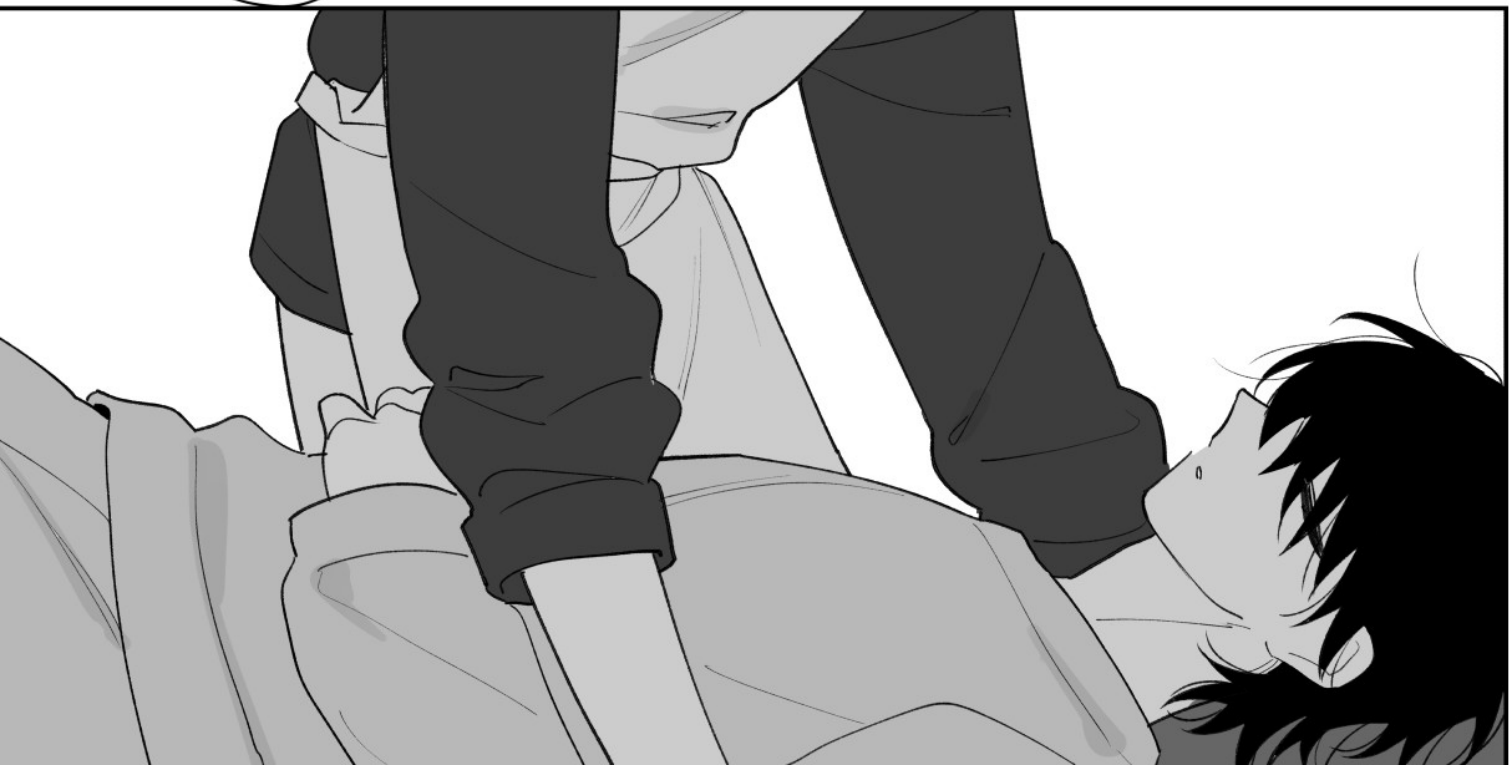
作家として
家に籠りきりで
書くようになった

来る途中さー
白菜安かったから
買ったんだけど

小鷹くん
食べられたっけ？

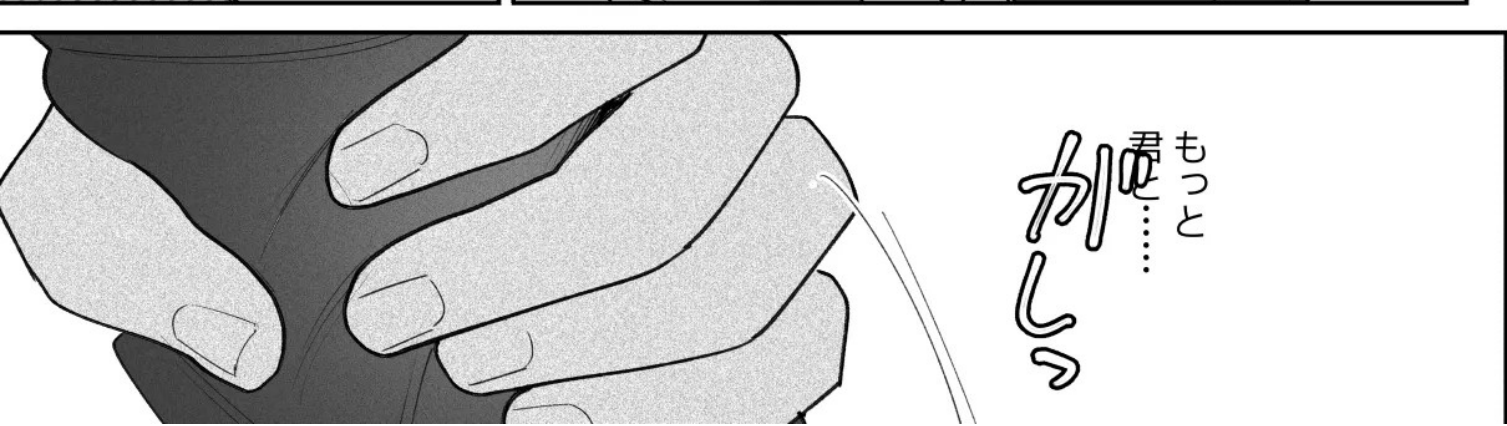






小鷹くんは
一度眠ると
中々起きない









それってさ



小鷹くんのこと

好きだから…

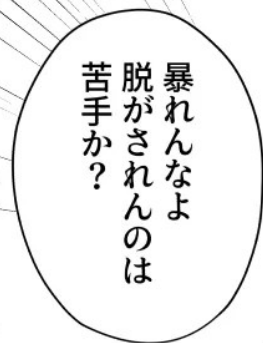


俺とセックス
したいってこと？



うわっ

ど××っ











それから
俺たちの日常は
変わった

…と言っても
一緒に居る時間が
少し増えたくらい
だけど



今日全然
話してない

ザ——
……

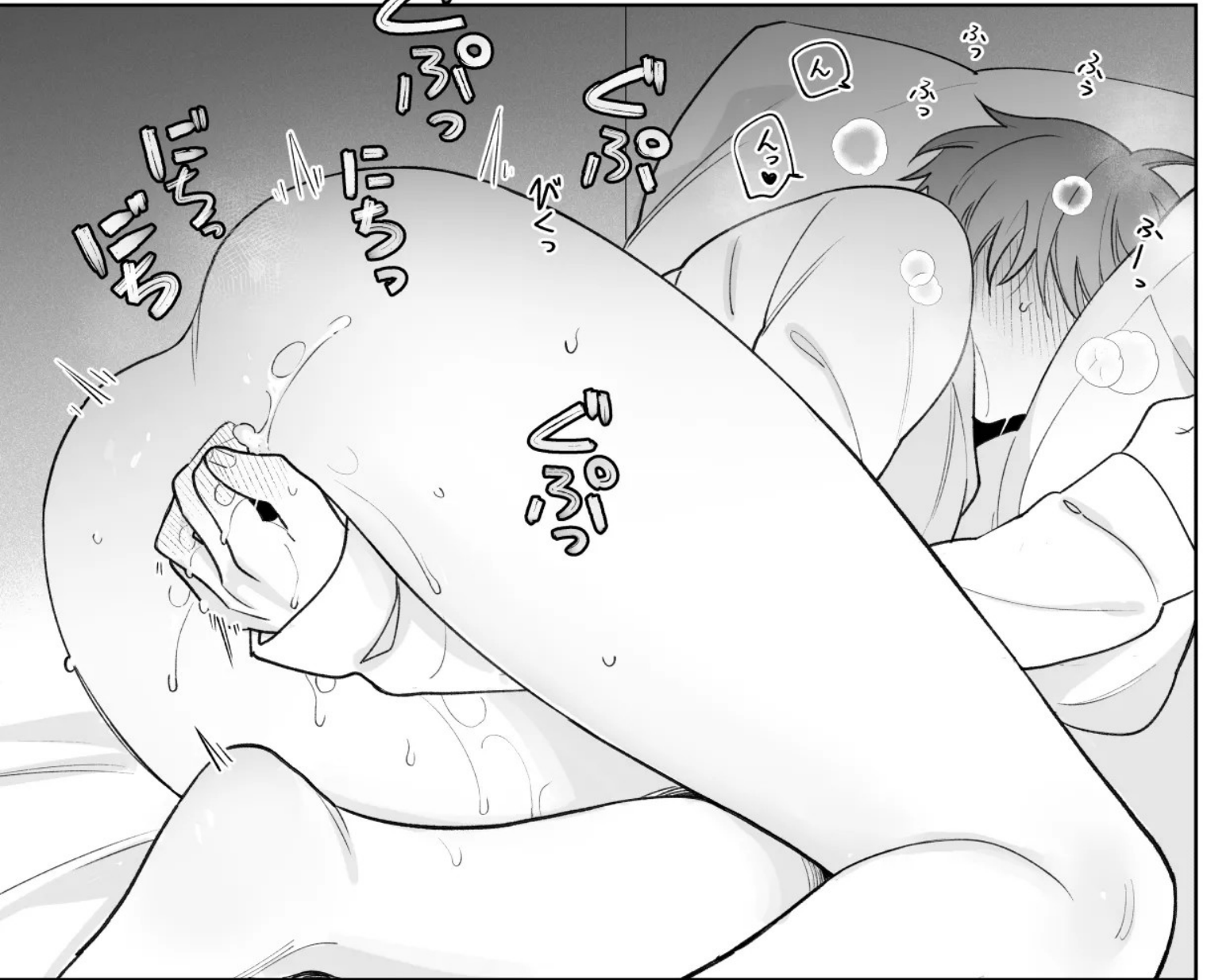
…そうね



小鷹くん…

気が散るん
だけど…





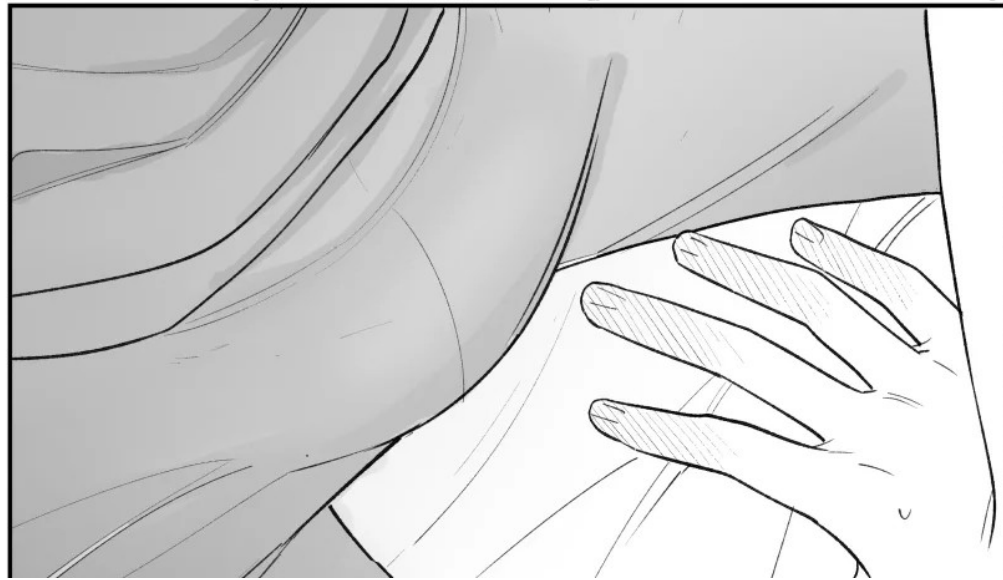


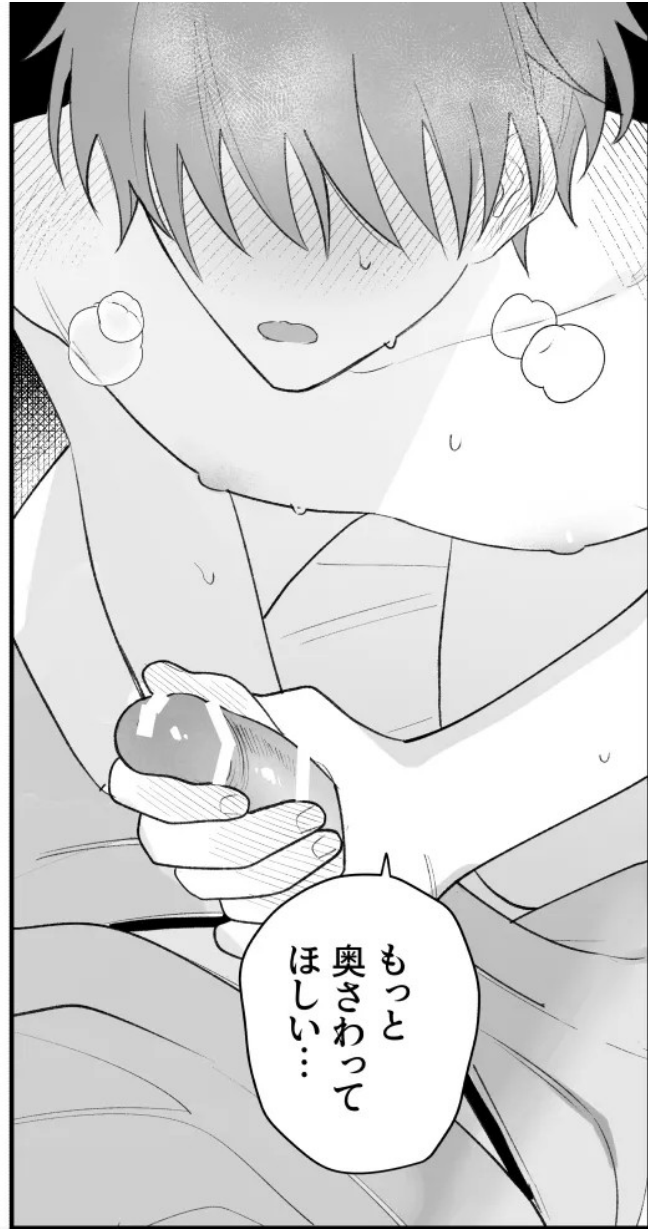


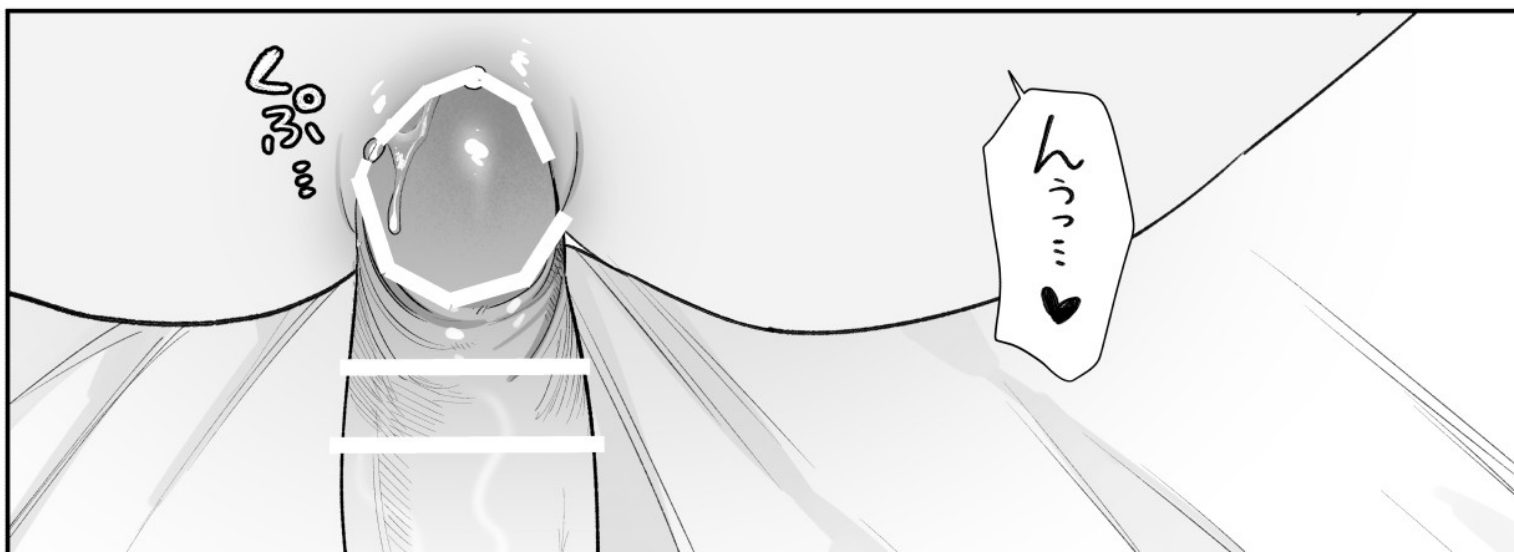


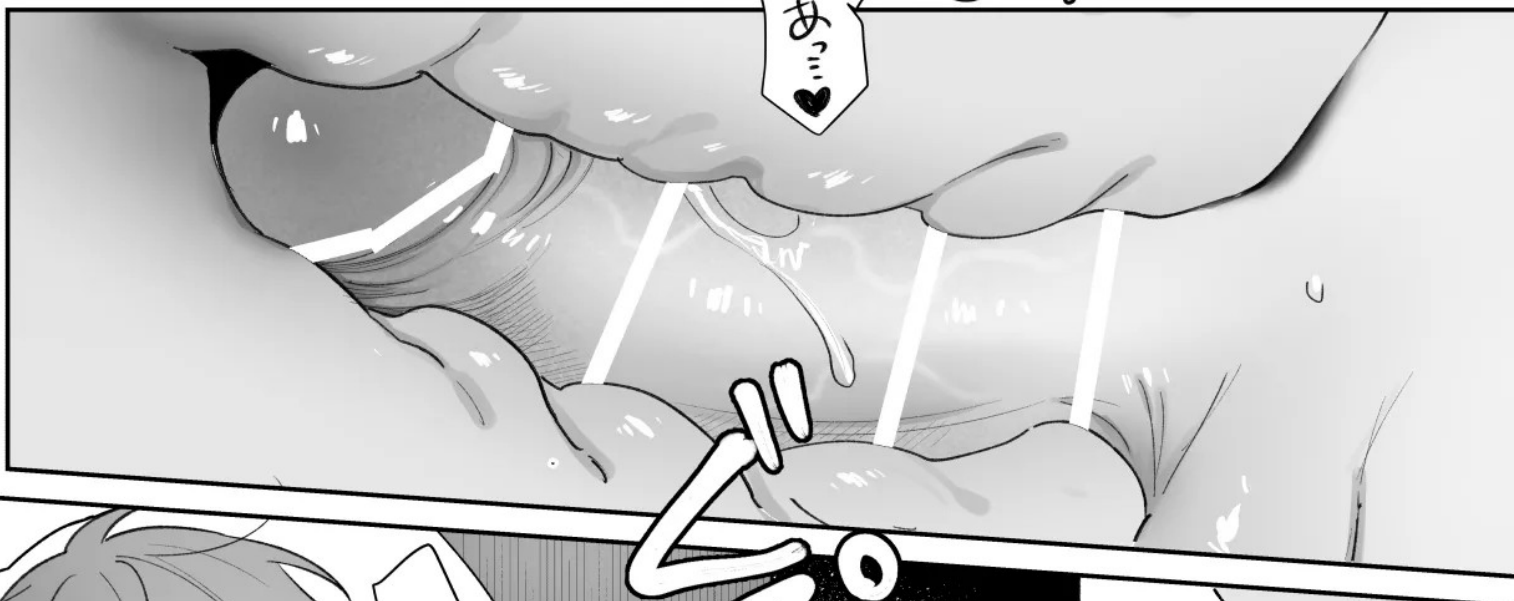




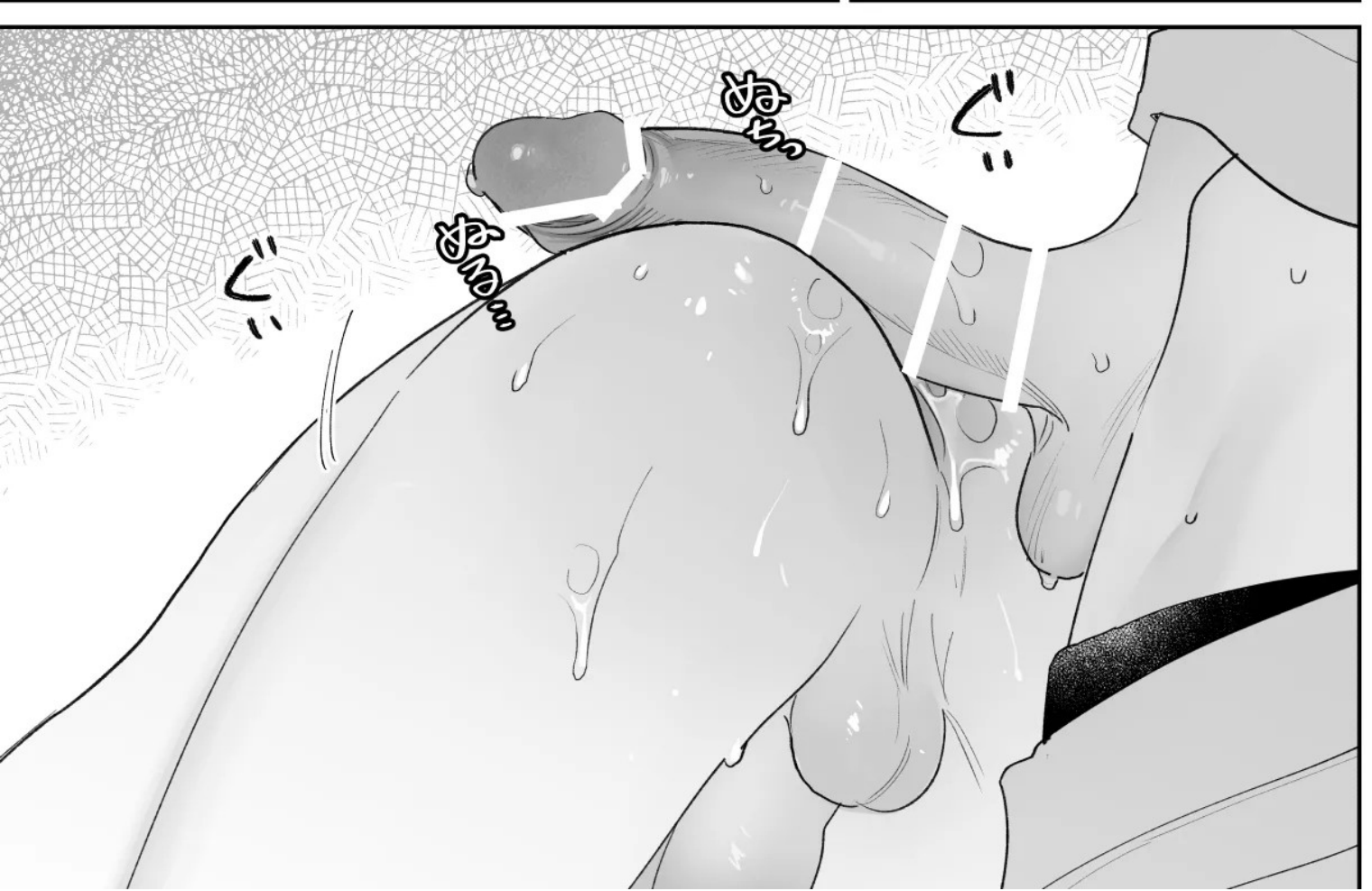


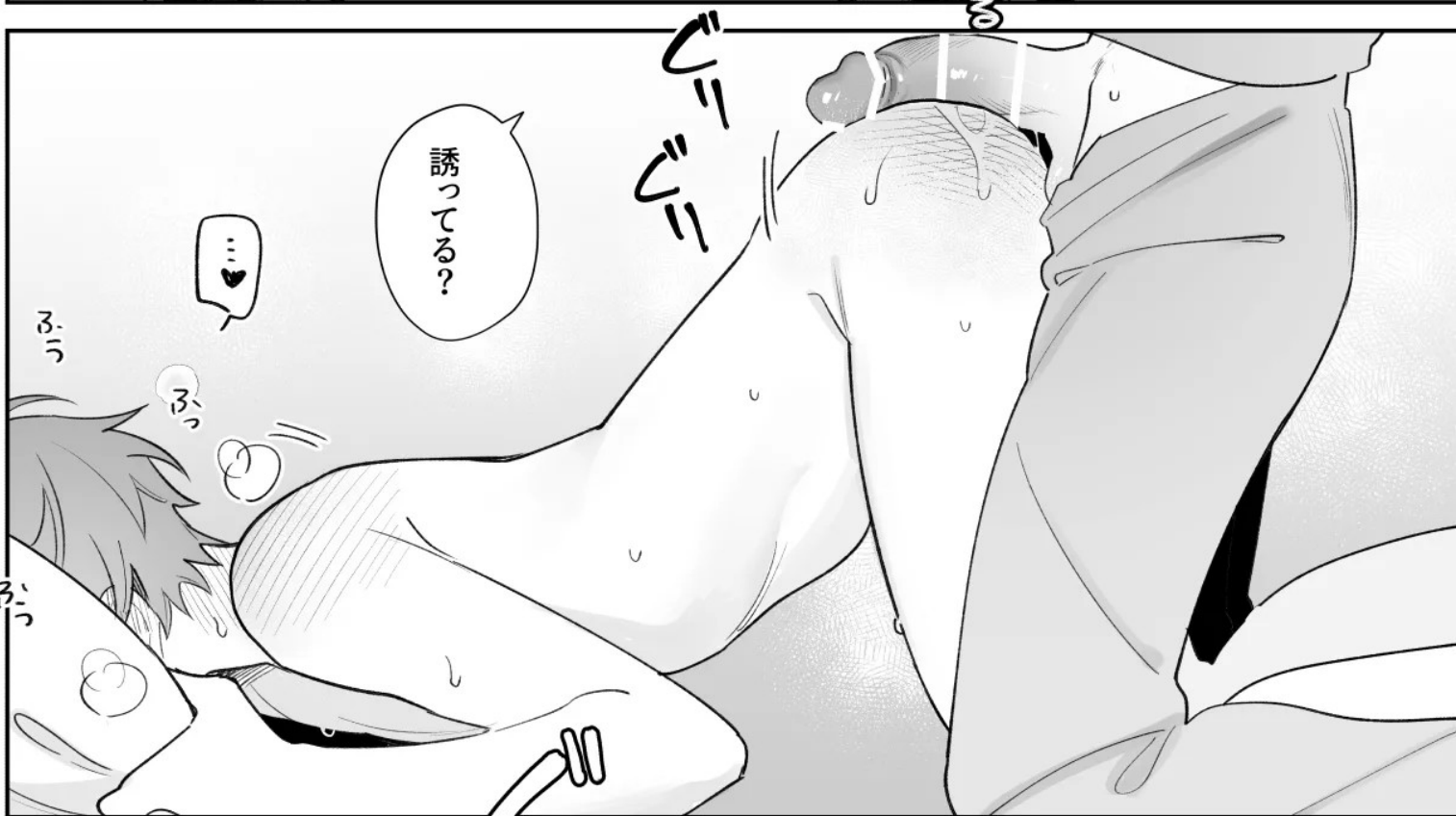






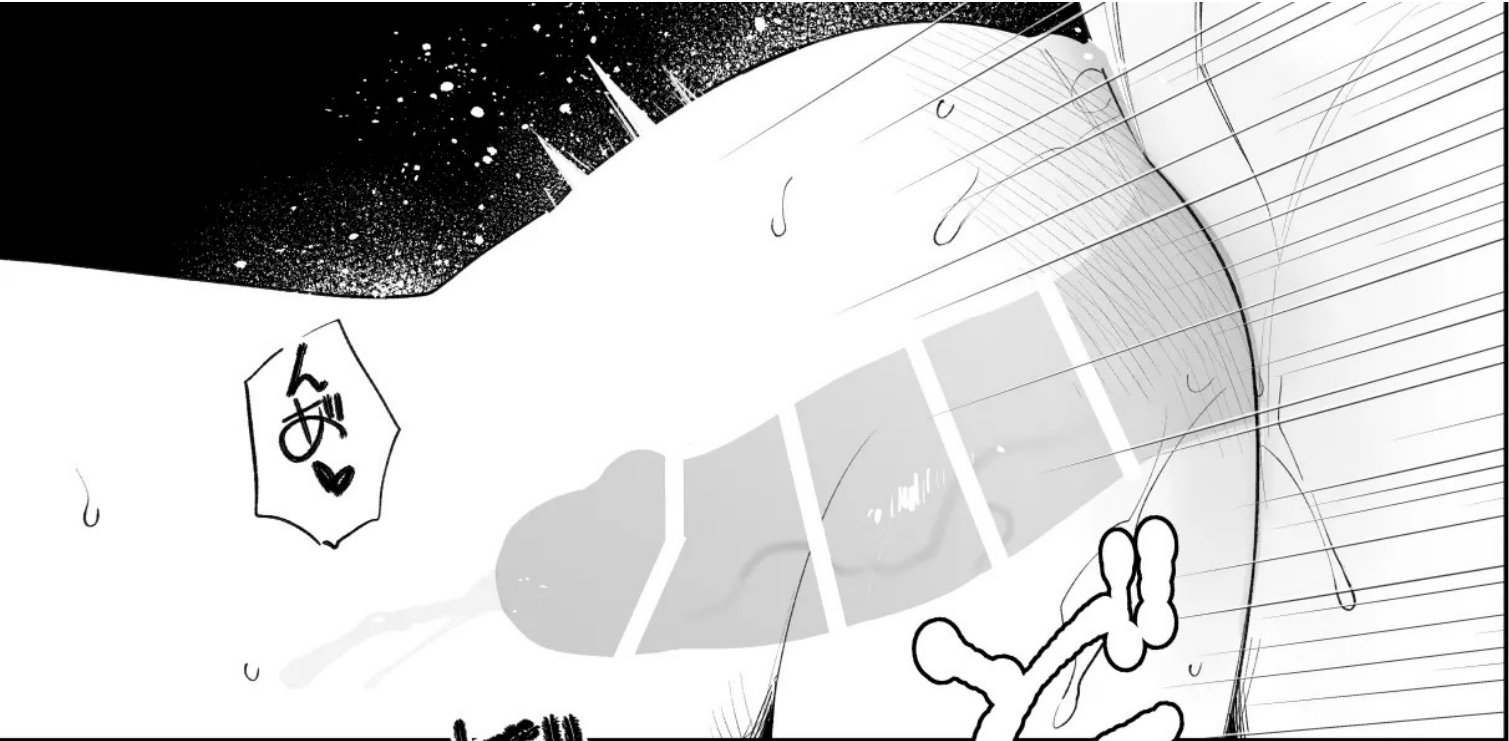










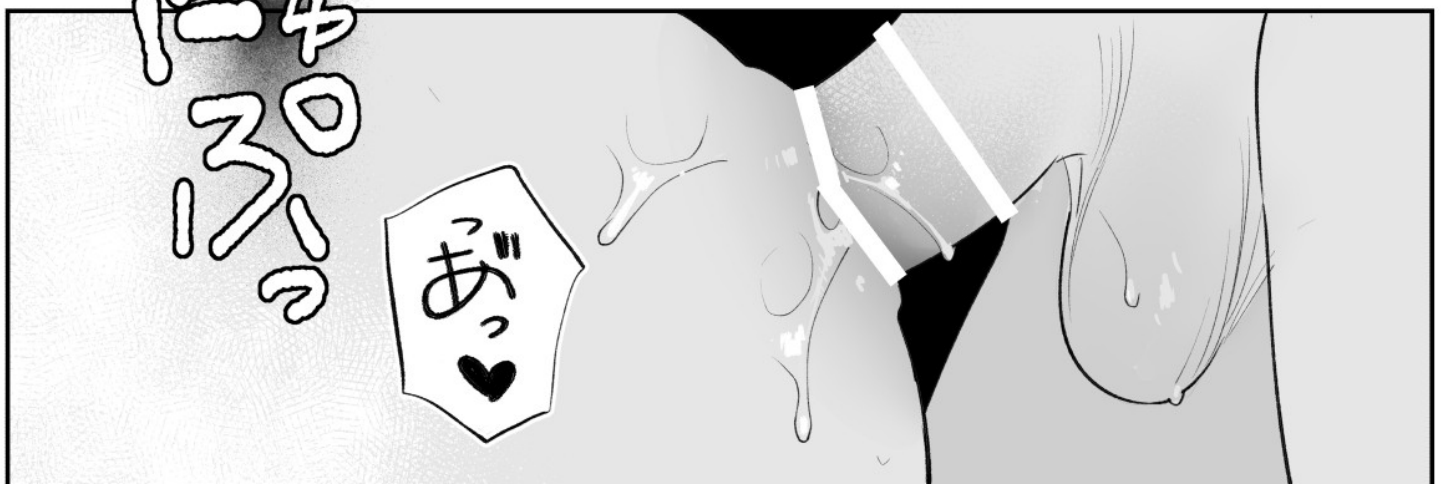






おまえ最近
遠慮してただろ

え…？











X
@shiwo_____



Pixiv
68607873

発行者 Demi/シヲ
連絡先 kekepc51@gmail.com